

平成 29 年度 一般入学試験問題（Ⅱ期 B 日程）

国 語

注意事項

1. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ①氏名欄
氏名・フリガナを記入しなさい。
 - ②空欄
「年月日欄」の右横の空欄に「国語」と記入しなさい。
 - ③番号欄
受験番号を左詰めで記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
2. この冊子は、問題が 17 ページあります。
3. 試験中に印刷の不鮮明、落丁・乱丁あるいは解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。
4. 受験番号が正しくマークされていない場合、採点できないことがあります。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。たとえば、

10

と表示のある問いに対して 3 と解答する場合は、(例) のようにマークしなさい。

(例)

解答番号	解答記入欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

□ 次の問に答えなさい。

問一 次の言葉の類義語をそれぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は□1、②は□2、③

は□3

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 周到 | 1 | 克明 | 2 | 和解 | 3 | 執念 |
| ② | 辛抱 | 1 | 精進 | 2 | 強硬 | 3 | 忍耐 |
| ③ | 大衆 | 1 | 選良 | 2 | 暴徒 | 3 | 世間 |

問二 次の言葉の対義語を、それぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は□4、②は□5、③

は□6

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 正統 | 1 | 直轄 | 2 | 異端 | 3 | 全体 |
| ② | 虚構 | 1 | 事実 | 2 | 応用 | 3 | 架空 |
| ③ | 現象 | 1 | 原因 | 2 | 根拠 | 3 | 本質 |

問三 次の傍線部にあてはまる漢字を、それぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は 7、②は 8、

③は 9

- ① 女性の購買意欲をカ|ンキする。 1 喚起 2 歓喜 3 換気
- ② 売上ル|イケイを調べる。 1 類型 2 累係 3 累計
- ③ 大失敗して意気ソ|ソウする。 1 粗相 2 阻喪 3 祖宗

問四 次の文の空欄に、それぞれ1から3の中から語を選んで補い、慣用句を完成させなさい。解答番号は、①は 10、

②は 11、③は 12。

- ① 一矢を 。
 - ② あまりの衝撃に を潰した。
 - ③ 「やる」と返事をするのに を踏んだのは、自信がなかったからだ。
- | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 報いる | 1 | 報いる | 1 | 継ぐ |
| 2 | 強いる | 2 | 強いる | 2 | 継ぐ |
| 3 | 強いる | 3 | 強いる | 3 | 継ぐ |
| 1 | 腹 | 1 | 腹 | 1 | 二の句 |
| 2 | 肝 | 2 | 肝 | 2 | 二の舞 |
| 3 | 頭 | 3 | 頭 | 3 | 二の足 |

問五 次の四字熟語の意味を、それぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は 、③

は 、④は

① 当意即妙

- 1 間違ったことに気づいても、素知らぬ顔でやりすごすこと。
- 2 どのような場所であつても気後れせずにあつてまうこと。
- 3 機転をきかせて場にふさわしい対応をすること。

② 外柔内剛

- 1 強権を発揮するあまり、周囲から批判を浴び、弱腰になること。
- 2 穏やかそうに見えて、実は芯が強いこと。
- 3 ありもしないことにもかかわらず、明白な嘘を言い張ること。

③ 面目躍如

- 1 名声や世間体がよりよくなること。
- 2 盛大に憂さを晴らすこと。
- 3 こじれた物事を手際よく解決すること。

④ 吳越同舟

- 1 信賴し合った味方同士で、ともに苦境を乗り越えようと努めること。
- 2 遠い故郷の、船が行き交う懐かしい景色を想起すること。
- 3 仲の悪い者同士が同じ場所や似たような境遇にあること。

二 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

最近の若者たちは、いわれたことはきちんとこなすが、自分からは何をしていいのか、十分な状況判断ができない。「マニユアル族」「アシジ待ち族」だ、などと悪口をいわれることがあります。学生たちを見ていても、与えられた課題についてはまじめに勉強するのですが、自分から問題を立ててそれを解くということは、あまり得意ではないようです。

毎年、卒業論文のテーマを決める時期になると、適当なテーマを見つけられずに頭を抱える学生が出てきます。関心を持つ領域やテーマをおぼろげながら見つけても、それを的確な「問い」のかたちで表現できない学生もいます。いったん問題を与えられれば答え探しは得意なのですが、自分で問題を探して解くとなると、それまでの教育や受験で「ツチカった能力だけでは「タッチウちできないでしょう。

A、気がかりなのは、問題が与えられた場合にも、学生たちは、I、と思っているふしがあることです。学生たちと議論をしても、性急に答えを探したがる場面が少なくありません。素直さ、まじめさの裏返しなのかもしれません。じっくり考えるより、簡単にどこかに答えがあると思ってしまうのです。

かつて非常勤講師をしていたある大学で学生にレポートを書かせたところ、教科書から「ガイトウする部分を抜き書きするだけ、せいぜいがその部分を適当に縮めてまとめただけということがありました。大学というところは、「考える力」をつける場所なのに、教師のいつていることや本に書かれたことから「正解」を探せばよいと思っっているようなのです。

教師が教壇から話したことを、丹念にノートに取る。試験やレポートのときにはそのノートに書かれたことをほぼそのまま繰り返す。私の体験したアメリカの大学だったら、IIのまったくない解答として、それだけで落第になってしまうようなところが、日本の大学ではまだ平気で行われています。答えを知ることと、考えることとの違いをはっきりさせないまま、正しい答えさえ知っていればそれでいいんだという、「正解信仰」が根強くあるからでしょう。受験勉強のしかたも、こうした正解探しの発想を強めているようです。

この正解探しの発想の裏返しだが、「^②勉強不足症候群」とでも呼べるケースです。議論をしていてわからないことがあると、「よく勉強していないのでわかりません」と^オベンカイする学生がいます。自分でわからないことにぶつかると、勉強不足・知識不足だと感じてしまうのです。

「十分な知識がないのでわからない」「もっと本を読めば、わかるようになるだろう」。

問題が解けないのだと思い込んでしまう学生たち。これは、私が接している東大生に特徴的なまじめな学生たちなのかもしれない。しかし、彼らのような受験エリートならずとも、自分で考える力のなさを知識不足や勉強不足のせいだと見てしまうケースは、案外多いでしょう。本当のところは、知識がまったくないというより、知識をうまく使いこなせないのですが。

C 「知らないから、わからない」という勉強不足症候群の症状は、正解がどこかに書かれているのを見つければ、それで行ったことになるという正解信仰の裏返しです。そして、この正解信仰を突き詰めてしまうと、「唯一の正解」を求める、かたくなで原理主義的な態度にもつながってしまいます。

世界のことすべてを説明してくれる大正解がある。それを求める態度からは、ものごとには多様な側面があること、見る視点によって、その多様な側面が違って見えることは認めがたいでしょう。唯一の正解というひとつの視点からものごとをとらえようとするからです。そうした正解を求める態度は、^③複眼思考とは対極にある考えかたといってもよいでしょう。

そこまで極端でなくても、正しい答えがあると思ひ込み、その答えを見つければ人から認められると思ってしまう。そんな正解信仰が、自分の勉強不足・知識不足を反省ばかりしている「勉強不足症候群」の若者を生んでいるといえるのです。

考えるプロセスを経ていなくても、答えさえ見つけられればそれでいい。このような習性が身につけてしまうと、今度は答えがなかなか見つからない類の問題に出会った場合に途中で息切れして、^④ステレオタイプの発想にとらわれてしまいます。

D 、知識はないより、あったほうがいいに決まっています。本も読んでいないよりは読んでいたほうがいい。あることとがらを知っていることで、ステレオタイプの発想から逃れられるという例は、たくさんあるでしょう。けれども、私がここで問題としたいのは、「知識があればわかる」とか、「調べればわかる」といった、知識の獲得によってすぐに解決できるような問題で

はなく、どうすれば知識と思考とを関係づけることができるか——簡単にいうと、知っていることと考えることを結びつけるやりかたの問題です。

(荻谷剛彦『知的複眼思考法——誰でも持っている想像力のスイッチ』)

問一 傍線アからオにあたる漢字ならびに送り仮名を、次の各群の1から5の中から選びなさい。解答番号は、アは 、

イは 、ウは 、エは 、オは

ア	シジ	1	支持	2	指示	3	師事	4	支示	5	試持
イ	ツチカった	1	育った	2	養った	3	拾った	4	凝った	5	培った
ウ	タチウチ	1	太刀打ち	2	竹刀討ち	3	太刀討ち	4	竹刀打ち	5	立刀打ち
エ	ガイトウ	1	街灯	2	該当	3	外套	4	街頭	5	外灯
オ	ベンカイ	1	弁解	2	弁改	3	便解	4	勉強	5	便開

問二 から にあてはまる接続詞の組み合わせとして最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

1	Aもし	Bあるいは	Cただし	Dたとえば
2	Aしかも	Bつまり	Cところが	Dもちろん
3	Aしかも	Bところが	Cさて	Dもちろん
4	Aさて	Bさらに	Cもちろん	Dあるいは

- 5 Aたとえば Bけれども Cそして Dさて

問三 にあてはまる最も適当な語句を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 自分の答えは間違っている
- 2 教科書が必要だ
- 3 じっくりと考えたくない
- 4 誰かが正解を教えてください
- 5 どこかに正解がある

問四 傍線①「丹念に」の意味として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 正直に
- 2 複雑に
- 3 適当に
- 4 丁寧に
- 5 上手に

問五 II に最もあてはまらないものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 25

- 1 協調性
- 2 オリジナリティ
- 3 創造性
- 4 自分なりの考え方
- 5 独創性

問六 傍線②「勉強不足症候群」とは、どういうことか。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 26

- 1 たくさんの本を読んで、すでに十分な知識を持っているため、積極的に勉強することをやめてしまうこと
- 2 必ずどこかに正しい答えがあるに違いないと思ひ込み、正解がわかるまで、勉強をやめられないこと
- 3 正しい答えがわかっているにもかかわらず、いつも勉強不足であるかのように感じて、反省していること
- 4 答えがなかなか見つからない類の問題に出会ったとき、勉強不足・知識不足が理由で、正解が見つけれないと考えること
- 5 何とかして正しい答えを見つけようとするが、それがうまくいかないと勉強に対して恐怖心を持ち、勉強不足になること

問七 傍線③「複眼思考」とは何か。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 27

- 1 見る視点を変えながら、唯一の正解が見つかるように試行錯誤すること

- 2 世の中には、二種類の代表的な思考方法が存在すること
- 3 多様な側面があることを認識して、ものごとをとらえようとする事
- 4 様々な側面を見ずに、正しい答えを得ようとして考えること
- 5 常識を尊重してから、考えをまとめること

問八 傍線④「ステレオタイプの発想」とは何か。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

28

- 1 人を驚かせるような、奇抜な発想
- 2 常識にとらわれた、型にはまった発想
- 3 わずかなエリートだけができる、特殊な発想
- 4 一般の人が共通して抱く、標準的な発想
- 5 他の人が気付かないような、新鮮な視点からの発想

三 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

まず、次のような問いを立ててみたい。「絶対的な確かさ」のない世界で、われわれはどうやって、「杞憂」のコジのように不安に怯えることなく、それなりに安心して生きているのだろうか。われわれにとって「確かさ」が、絶対的なものでもなく、かつ無関心でもいられないものだとしたら、それはわれわれの生のなかでどのような仕方働いているのだろうか。これらの問いを通して、「確かさを取り巻くコンテキスト」に踏み入ってみたい。

最初に取り上げたいのは、専門知とその「確か性」についてである。それを考えてみると、一見確か性が高いかに見える専門知が、より広いコンテキストに支えられており、そのコンテキストは、一見専門知よりも「不確か」であるかのように見える「人間同士の関係」の次元にあることが見えてくるのである。

「このマンシヨンの耐震性は確保されているのか？」「原子力発電所の安全性は確保されたのか？」これらのことがのつぎきならない問題であると感じられるのは、われわれがそこに^①不安を感じるからである。逆に、二〇〇五年に多数の建築物の耐震強度偽装が発覚するまでは、マンシヨンの耐震性に疑問を感じる人はきわめて少なかったであろうし、二〇一一年に震災に伴って福島原発事故が発生するまでは、「原子力発電所は十分に安全なのである」と、ほとんどの人がバクゼンと思っていたであろう。「確かなのか？」という疑問か？という疑問さえ浮かばないところでは、それが確かである、と言う必要さえ感じられない。「確かなのか？」という問いが切羽詰まったものになってきたときには、われわれはもうすでに大きな不安の中にいるのである（逆に、「確かだ」ということがさかんに語られるとき、それは「不確かではないか」という不安とのせめぎあいのなかで語られている）。

このマンシヨンも危ないのでは？ この検査でもまだ安全は確認できないのでは？ インペイや偽装を疑い始めると、証拠を示されても、その証拠自体がまた疑いの対象になるから、^②疑念はどこまでも膨らむ。極端な場合、それは「陰謀説」のようなものにまで発展しかねないだろう。

そして、際限なく疑念が膨らむのは、しばしば、「一般人」

A

「素人」には自分で検証できない知識や技術に関わるケ―

又である。建築物の構造計算を自分で行うことができる人は稀である。原子力発電所の安全性となると、一人ですべてを確認する事柄ではない。多数の専門知が複合的に組み合わせあって、はじめて検証が可能になる。「素人」の手に負えるものではないし、一つの分野の専門家であっても、ほとんどの他の分野については素人に近い。「素人」にはわからないから、「専門家」に任せろ、と言われたとき、「専門家」の信頼性が問われる。専門家たち自身が確かに信頼できるのか、が問い質されるのである。耐震偽装にしても、原発の安全性にしても、揺らいでいるのは当の「モノ」自体に関する確実性より、「専門家」ないしその集団への信頼性であると言った方がよい。

(中略)

ある専門家集団を信頼できるかどうか、という問題は、科学に特有の構造的問題にも関わっているが、ここでその問題に踏み込むことはできない。ここではむしろ、専門家集団も人間の集団である、という点に着目しよう。この点に限って言えば、専門家集団に対する信頼は、その他の人間集団に対する信頼と本質的には変わらない。われわれは、さまざまな人間や人間の集団について、その信頼性をたえず評価し、吟味しながら生きている。この友人は信頼できるかどうか、この会社は取引先として信頼できるかどうか、この銀行は信頼できるかどうか、この国の代表団は信頼できるかどうか、この時代にこの地域を探検した人々の報告は信頼できるかどうか、等々。

その場合、^③ 広い意味での「他人の評判」は有力な手がかりになる。この会社は、これだけ多くの会社と取引をしているのだから、信頼できるだろう。この探検家の報告は、これだけ多くの研究書に引用されているのだから、信頼できるだろう、といった具合である。こうした「他人の評判」は、最終的には、直接触れあう身近な他人にまで行き着く。ある会社の信頼性を支えているさまざまな取引先のなかには、自分の会社のよく知っている取引先も含まれているかもしれない。B、いくつか繋がりを持たざれば、どこかで自分の直接知っている範囲に触れあうところが出てくるだろう。ある探検家の報告が信頼できることは、そ

れを引用している無数の文献から、スイソク①できるが、それらの文献のなかには、自分の恩師が教えてくれた文献も含まれているかもしれない。そうでなくても、いくつか繋がりを読めば、そのように自分が直接見聞きした範囲にリンクが及ぶだろう。

このようにして、ある事柄が「確か」であるかどうかは、無数の人間関係の連鎖に支えられ、それをコンテクストとして成立しているが、その人間関係の連鎖を辿れば、その信頼性の重要な部分は、自分が直接知り合った人々の信頼性に根づいているということがわかる。文献を覚えてくれた教師を私が信頼しているのは、どのような教師が信頼できるかを身をもって（ときには反面教師として）教えてくれた数多くの教師たちのおかげだし、それらの教師たちが、私にとって教師としての信頼性を獲得したのは、私の親を含む大人たちの態度や、「教師とはどんな存在か、教師に対してどう振舞うのが適切か」について彼らが教えてくれたことによるかもしれない。養育者やそれに類する人々は、私にとってそもそも他人への信頼の原型を形づくった人々であると言える。そこから出発して、信頼形成のリンクをたどって、われわれは専門家集団の信頼性までを判定し、それに支えられて、その専門家集団の専門知に支えられた事柄を、「確か」であると考えてるのである。

専門知の信頼性が人間ないし人間集団の信頼性に依存しているという議論に、C 科学を職業にしている人たちは、違和感を覚えるかもしれない。人が科学を信頼するのは、それがきちんと、ステップを踏めば誰でも確かめられるからだ、といったくなるかもしれない。もちろん、それも科学への信頼の根底にあるだろう。一般の人も、そのことは理解している。だがほとんど人はそれが実際にはできない。さらに、たとえ何らかの分野の専門家であっても、すべての科学的知識を実際に漏れなく自分で検証するのは、現実的には不可能である。それにもかかわらず、④ 圧倒的多数の人が科学を信頼しているのはなぜか。それが問題なのである。そこには明らかに、反省的な主題的検証によるのではない「確かさ」が顔を出している。そのような非反省的な「確かさ」が、人間関係の多重的なリンクに依存しており、その信頼性の網の目をたどっていくと、直接に見聞きし、語り合い、交渉している身近な他人とのつきあいが、⑤ その信頼性の核にあることが見えてくるのである。

（田口茂『現象学という思考』）

問一 傍線部 a から c の意味として、最も適当な組み合わせを次の 1 から 4 の中から選びなさい。解答番号は

- | | | | | | | |
|---|---|------------------------|---|----|---|----|
| 1 | a | 一度失敗したのに懲りて無用な心配をすること。 | b | 状況 | c | 歩調 |
| 2 | a | 一度失敗したのに懲りて無用な心配をすること。 | b | 脈絡 | c | 段階 |
| 3 | a | 将来についてあれこれと無用な心配をすること。 | b | 場面 | c | 歩調 |
| 4 | a | 将来についてあれこれと無用な心配をすること。 | b | 文脈 | c | 段階 |

問二 傍線部 ㉗ から ㉙ にあたる漢字を、それぞれ次の 1 から 4 の中から選びなさい。解答番号は、㉗ は

㉙ は 、㉘ は 、㉚ は

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ㉗ | コジ | 1 | 戸 | 2 | 故 | 3 | 個 | 4 | 呼 |
| ㉘ | バクゼン | 1 | 漠 | 2 | 博 | 3 | 暴 | 4 | 縛 |
| ㉙ | インペイ | 1 | 柄 | 2 | 弊 | 3 | 並 | 4 | 蔽 |
| ㉚ | スイソク | 1 | 推 | 2 | 粹 | 3 | 垂 | 4 | 遂 |

問三 傍線部①「不安を感じるからである」とあるが、なぜ「不安を感じる」のか。その理由として、最も適当なものを次の1から4の中から選びなさい。解答番号は

- 1 二〇〇五年に多くのマンションで耐震強度の偽装が分かり、耐震性に対する不安が具体的なものになったから。
- 2 二〇一一年に原発事故が起こったことにより、原子力の危険性についてのうわさばかりが流布するようになったから。
- 3 二〇〇五年に多くのマンションで耐震偽装が発覚し、耐震性への信頼自体が不確かなものになったから。
- 4 二〇一一年に原発事故が起こったことにより、以前からの原発の安全性への疑問が明白なものになったから。

問四 傍線部②「疑念はどこまでも膨らむ」のは、どのような場合だと筆者は考えているか。最も適当なものを次の1から4の中から選びなさい。解答番号は

- 1 多数の専門家集団によって、客観的な調査が行われたが、その基礎となっているデータ自体が真偽不明の場合
- 2 素人では検証できない知識について専門家集団に検証が委ねられているが、その集団自体の信頼性が不明な場合
- 3 「一般人」には分からない問題について、専門家集団が「モノ」自体の安全性に関する多角的な実験に基づいてその検証データを説明した場合
- 4 証拠の偽装が行われたが、信用のある専門家集団によって検証し直された場合

問五 から に入る語の最も適当な組み合わせを次の1から4の中から選びなさい。解答番号は

- 1 A 総じて B おおよそ C 少なくとも

- 2 A おおかたは B いずれも C とりわけ
- 3 A あるいは B 少なくとも C とりわけ
- 4 A もしくは B ほとんど C 少なくとも

問六 傍線部③「広い意味での『他人の評判』は有力な手がかりになる」とあるが、その具体例として、明らかに合致しないものを次の1から4の中から選びなさい。解答番号は 37

- 1 聞いたことのない会社だが、客観的な企業情報から安全な取引ができると期待される。
- 2 多くの会社と取引をしているので、不誠実な取引はしないだろうと考えられる。
- 3 初取引の会社だが、評判が悪く取引先が少ないので、信頼できないと判断できる。
- 4 自分の会社の取引先も、その会社と取引をしているので、信頼できる会社だと思われる。

問七 傍線部④「圧倒的多数の人が科学を信頼している」とあるが、その理由を説明したものとして最も適当なものを次の1から4の中から選びなさい。解答番号は 38

- 1 科学に対する信頼性は「確かさ」への信頼であり、着実なステップを踏めば、誰にでも科学的な検証が可能であるから。
- 2 科学への「確かさ」を自分で検証することはできなくても、科学の信頼性を、人間関係の信頼性を担保に維持しているから。
- 3 一般的に科学は証明可能であるという信頼を築いており、少々信頼が揺らいでも、われわれは「確かさ」という安心を得たいと思ってしまうから。
- 4 科学の信頼性は専門知への信頼であり、科学的な検証には間違いがないと思っっているから。

問八 傍線部⑤「その信頼性の核」となる理由として、この文章の内容と明らかに合致しないものを次の1から4の中から選びなさい。解答番号は 39

- 1 「不確か」である「人間同士の関係」から、人々は「確かさ」を築いているから。
- 2 専門家集団への信頼は、科学的な正しさだけでなく人間関係として信頼できるかどうかに関わっているから。
- 3 文献に対する信頼は、文献の引用の数だけでは計れず、具体的な内容が関わっているから。
- 4 信頼性には、会社の取引の多さのように、数値的なものも関わっているから。

問九 この文章の内容と合致するものを次の1から4の中から選びなさい。解答番号は 40

- 1 マンションの耐震偽装が発覚した後、耐震性についての信頼性が失われたが、科学的検証が可能なので人々は不安にかられることはない。
- 2 科学の「専門家」といっても、専門分野を離れると「素人」であり、「確かさ」は人間の個人的な信頼のつながりに基づいて判断している。
- 3 科学の「確かさ」への疑問が生じると、人々は科学の「専門家」を信頼しなくなる。
- 4 親は、教師という存在が信頼できるかどうかは分からないが、信頼したふりをしなさいと言う。

(以下余白)

